

## I 財政状況

# 1 決算収支の状況

- (1) 決算収支
- (2) 歳入決算規模
- (3) 歳出決算規模

## (1) 決算収支

(単位：百万円)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
歳入決算額 A	25,714	26,383	29,159	29,612	31,136	33,604	34,486	31,457	37,092	34,491
歳出決算額 B	24,732	25,559	27,018	28,608	30,081	32,549	33,492	30,506	36,288	33,758
形式収支 (A-B) C	982	824	2,141	1,004	1,055	1,055	994	951	804	733
翌年度へ繰り越すべき財源 D	281	204	1,471	313	395	408	382	205	147	92
実質収支 (C-D) E	701	620	670	691	660	647	612	746	657	641
単年度収支 (E-前年度実質収支) F	144	△81	50	21	△31	△13	△35	134	△89	△16
積立金 G	191	105	173	313	637	87	112	98	134	86
繰上償還額 H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
積立金取崩額 I	12	0	1	33	2	298	199	26	200	650
実質単年度収支 (F+G+H-I) J	323	24	222	301	604	△224	△122	206	△155	△580

### 傾向分析

歳入・歳出決算額は増加傾向にあり、18、19年度はやや低い水準となりましたが、20年度以降再び増加しています。毎年、形式収支は6～10億円程度の黒字決算となっていました。20年度は翌年度に繰り越すべき財源として定額給付金などが入ったため大幅な黒字決算となりました。

27年度は平年並みの黒字決算となっています。また、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支も概ね平年並みであり、黒字となっています。

27年度の実質収支比率は3.8%となっており、良好な財政運営を表しています。

【参考：実質収支比率の算式】 ※概ね3%～5%が良好とされる。

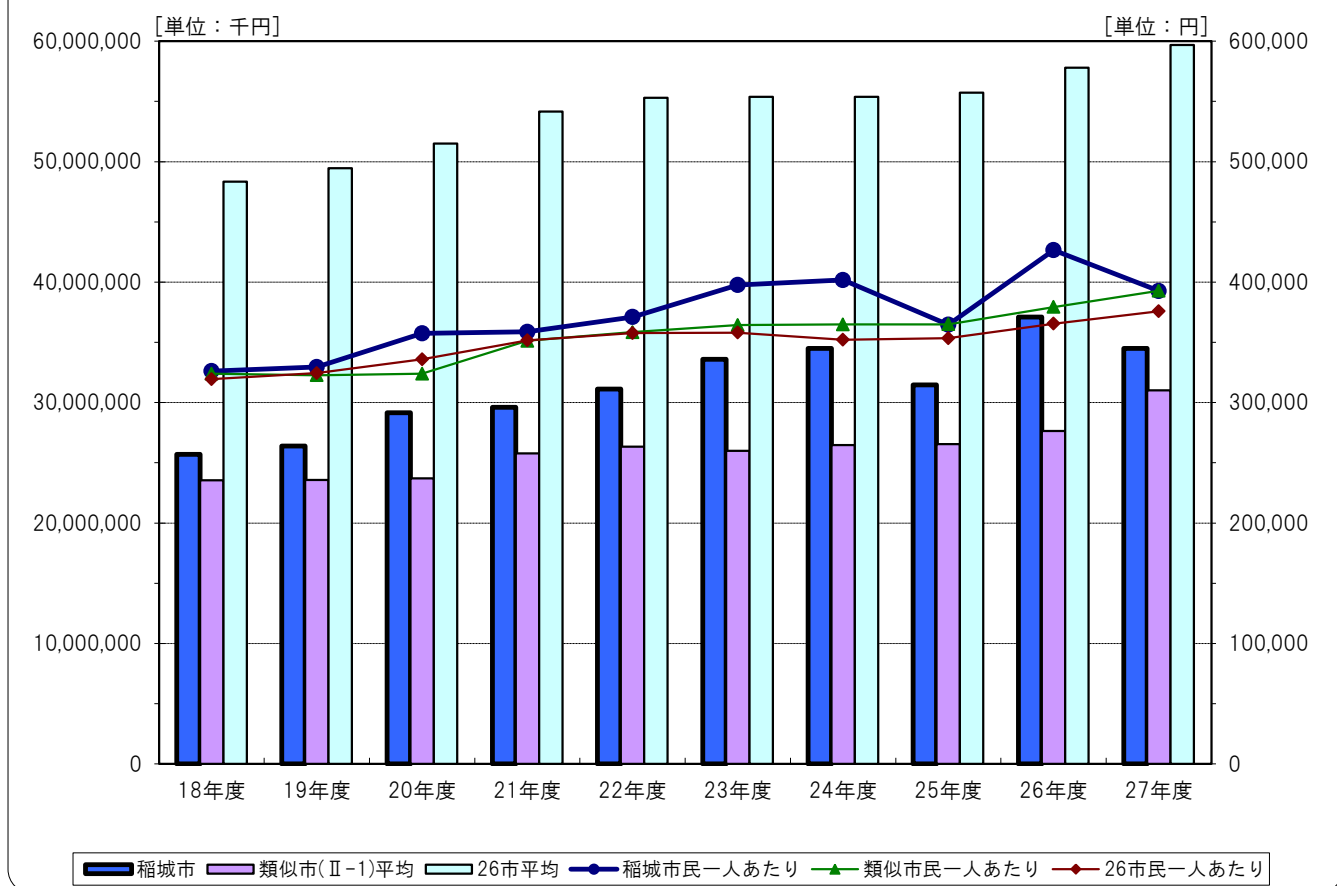
$$\frac{\text{実質収支 (E)}}{\text{標準財政規模} + \text{臨時財政対策債発行可能額}} \times 100 (\%)$$

\* 19年度より、臨時財政対策債発行可能額を加えることとなる。

### 27年度決算26市比較データ 実質収支比率(抜粋)

No.1. 福生市	13.3%
No.2. 調布市	11.0%
No.3. 立川市	9.5%
No.10. 狛江市[類似市]	6.6%
No.18. あきる野市[類似市]	5.0%
No.20. 稲城市	3.8%
No.24. 小平市	3.4%
No.25. 国立市[類似市]	3.0%
No.26. 青梅市	2.8%

## (2) 歳入決算規模



(単位：千円、円)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
稲城市	25,714,456	26,382,997	29,159,076	29,611,586	31,135,509	33,603,714	34,485,823	31,457,126	37,092,369	34,490,686
稲城市民一人あたり	326,131	329,516	357,495	358,741	371,089	397,668	401,741	364,644	426,594	392,707
類似市(II-1)平均	23,556,058	23,567,991	23,716,346	25,789,474	26,333,012	25,988,411	26,465,216	26,541,610	27,637,562	31,028,007
類似市民一人あたり	323,910	322,774	323,857	351,303	358,419	364,300	364,886	365,019	379,371	392,894
26市平均	48,343,171	49,443,712	51,494,213	54,162,466	55,288,374	55,383,591	55,385,853	55,713,869	57,805,061	59,688,053
26市民一人あたり	319,502	324,545	336,025	351,702	357,775	358,071	352,126	353,362	365,496	375,846

### 傾向分析

歳入総額及び市民一人あたり額は、近年では26市平均、類似市平均ともにほぼ横ばいの状況にありましたが、27年度は増となっています。

稲城市では、年度ごとの増減はあるものの増加傾向にあります。

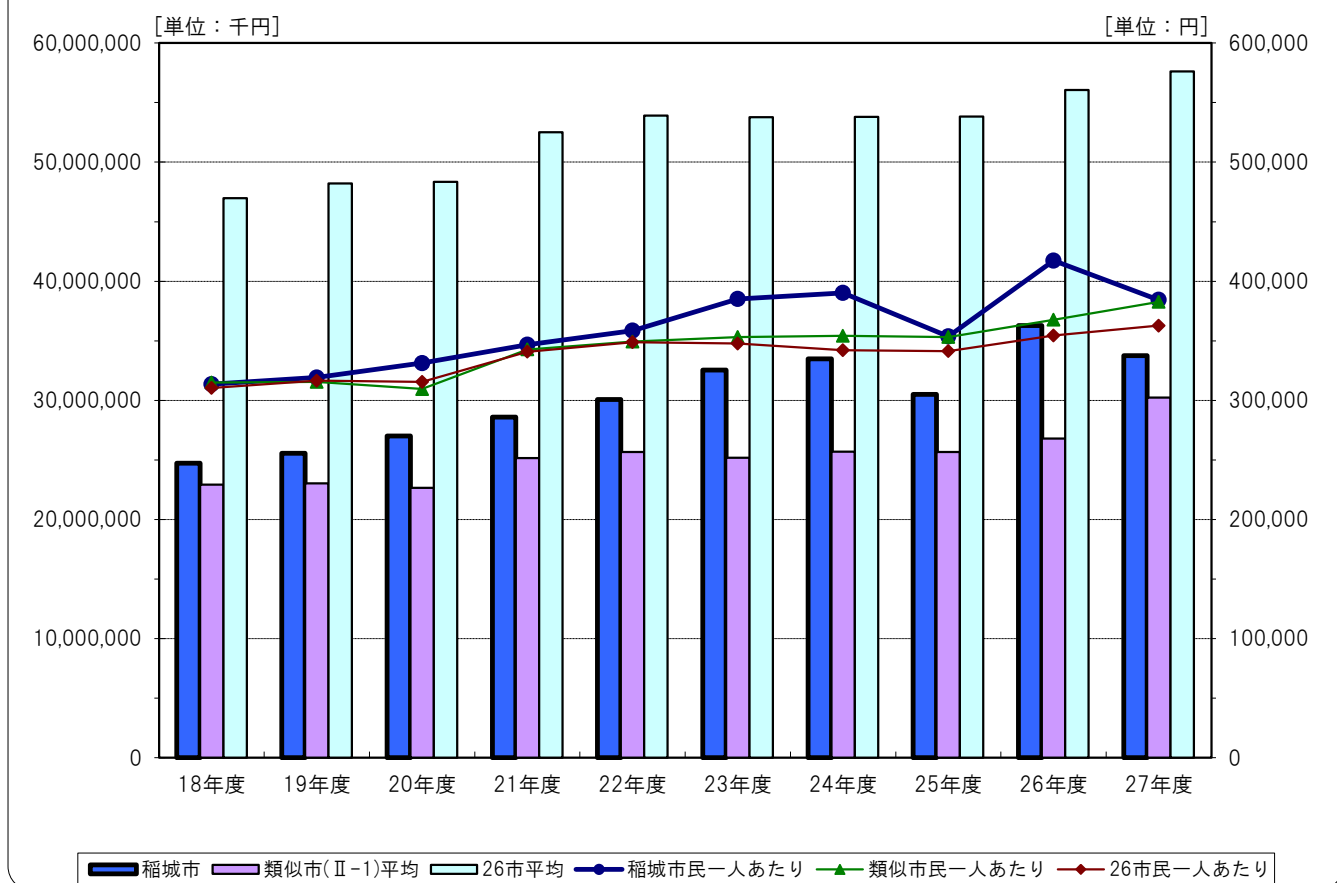
稲城市の歳入総額に年度によるバラつきが見られるのは、土地区画整理事業などの都市基盤整備や学校教育施設の整備の財源となる国庫支出金、都支出金、市債などが、事業の進捗状況に合わせて大幅に増減しているためです。

27年度は、(仮称)南山小学校建設事業債などの市債が減になったほか、財政調整基金繰入金などの繰入金が増となったことなどにより、前年度比2,601,683千円(7.0%)の減、市民一人あたり額33,887円(7.9%)の減となっています。

### 27年度決算26市比較データ 市民一人あたり額(抜粋)

No.1. 武蔵野市	476,807円
No.2. 立川市	439,706円
No.3. 福生市	427,617円
No.4. 国立市[類似市]	413,963円
No.7. あきる野市[類似市]	401,654円
No.9. 稲城市	392,707円
No.20. 狛江市[類似市]	364,359円
No.24. 小金井市	339,094円
No.25. 東久留米市	339,037円
No.26. 小平市	332,659円

### (3) 歳出決算規模



(単位：千円、円)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
稲城市	24,731,552	25,558,895	27,017,791	28,608,306	30,080,806	32,548,785	33,492,126	30,506,111	36,287,991	33,757,626
稲城市民一人あたり	313,665	319,223	331,242	346,587	358,519	385,184	390,165	353,620	417,343	384,361
類似市(Ⅱ-1)平均	22,913,815	23,041,790	22,664,266	25,159,650	25,660,890	25,193,362	25,694,961	25,678,190	26,793,187	30,226,622
類似市民一人あたり	315,079	315,567	309,490	342,723	349,270	353,155	354,267	353,144	367,781	382,746
26市平均	46,972,455	48,215,152	48,353,113	52,498,227	53,910,102	53,785,288	53,794,131	53,825,927	56,068,833	57,609,646
26市民一人あたり	310,443	316,480	315,528	340,895	348,856	347,738	342,006	341,388	354,518	362,758

#### 傾向分析

歳出総額及び市民一人あたり額は、近年では26市平均、類似市平均ともにほぼ横ばいの状況にありましたが、27年度は増となっています。

稲城市では、土地区画整理事業や南武線連続立体交差事業など、多額の資金が必要となる都市基盤整備を推進しているため、事業の進捗状況に合わせ、年度ごとに大きな増減を繰り返しながら、全体としては増加傾向にあります。

27年度は、(仮称)南山小学校新築工事請負費、第一小学校旧校舎建替等工事請負費などの投資的経費が大幅減になったことなどにより、前年度比2,530,365千円(7.0%)の減、市民一人あたり額32,982円(7.9%)の減となっています。

#### 27年度決算26市比較データ 市民一人あたり額(抜粋)

No.1. 武蔵野市	456,452円
No.2. 立川市	415,346円
No.3. 国立市[類似市]	407,177円
No.6. あきる野市[類似市]	390,986円
No.7. 稲城市	384,361円
No.19. 狛江市[類似市]	351,602円
No.24. 東久留米市	327,874円
No.25. 小平市	326,391円
No.26. 小金井市	325,674円